



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年12月第2週号

第2295回



出席報告 (会員数40名)

出席者数29	欠席者数11	ビジター 1	修正出席率74・36%
--------	--------	--------	-------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	12/27	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	12/28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	12/21・28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	12/22・29	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	12/22・29	ホテルポートプラザ'ちば
千葉中央RC	木	12/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	12/30	京成ホテルミラマーレ

平成22年12月10日(金) 点鐘12:30(晴れ)

- ◆ロータリーソング 『我等の生業』
- ◆四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

- ◆お客様紹介
・本日のゲストスピーカー/シナリオ作家 大川 義行様

会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

- ・明日は、千葉緑RCの忘年家族例会があります。17日(金)は、当クラブの忘年家族例会です。お子さんやお孫さんをお連れになって頂き、賑やかに過ごせたらと思います。
- ・2月15日(火)は、インターシティミーティング(IM)が開催されますので、宜しくお願い致します。

ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

大川義行様、本日の卓話、宜しくお願い申し上げます。

☆出井 清会員

小・中・高と私の先輩である大川さん、久しぶりです。本日の卓話、期待しています。

本日のニコニコボックス	3,000 円	累計	304,000 円
金の箱	220 円	累計	16,463 円



IM(アイ・エム)とは… 都市連合会(Intercity Meeting)のこと。

近隣都市数クラブが集まって開かれるロータリーの会合。討論の主な内容は、四大奉仕部門をカバーしつつ、ロータリーの特徴やプログラムなどを検討する。クラブ会員全員参加のこの会合の目的は、会員相互の親睦と知識を広めることであって、さらに、会員にロータリー情報を伝え、奉仕の理想を勉強するために開催される。

(ロータリー情報マニュアルより)

第2296回例会

忘年家族例会

日時⇒ 平成22年12月17日(金) 点鐘18:00
場所⇒ オークラ千葉ホテル

第2297回例会

日時⇒ 平成22年12月24日(金) 点鐘12:30
演題⇒ 気功とダンスのコラボレーション
卓話者⇒ 国際気功師 植松 恵美様
ダンサー 植松 佑実様



★ 本日の卓話 ★

演 題…『地元学の歴史・文化』

卓話者… シナリオ作家 大川 義行様



皆さんこんにちは。

先ず、千葉南ロータリークラブの南の概念を申しますと、千葉市の南部と言っても良いのではないのでしょうか。因みに現在、私はその南部の稲荷町に住んでおります。稲荷町はその字の通り稲荷神社からきていま

す。ですから、千葉南ロータリークラブの会員の皆さまには蘇我、稲荷町方面の方が多いと聞いておりますので、本日は町内会でお話しするようで、非常に親しみを感じます。因みに私は江戸の昔より、千葉市の文化財であります稲荷神社の側に代々住んでおまして、近所のお墓には古いものでは元禄時代の大川家のお墓もあります。

今日のテーマは、市原市から千葉市に入ってくる時に村田川という川を渡った所から話して行きたいと思えます。村田川は、皆さんご存知だと思いますが、上総と下総の境でしたので、昔はこの川を境川と言っていたそうです。浜野の駅の近くにお店がありまして、両国屋と言うのですが、お店の主人に聞いてみましたら、昔先祖が上総と下総の境だから両国屋と言う名前を付けたそうです。この様に歴史というものは、今日まで変わらず続いているのです。それが歴史の面白さです。

村田川を渡りますと、現在は浜野という地区があります。昔は浜野という地区と生実を合わせて生浜と言っていました。生浜という地区は読売ジャイアンツの高橋由伸選手の故郷でもあります。彼は、この生浜東小学校を卒業しました。その小学校の校庭に非常に大きな古墳がありました。七曲り古墳と言いました。何故、七曲り古墳かと言いますと、これには面白い謂れがありますので注目して下さい。それは、塚の周りを片足で七回廻ると塚の中から機織の音色が聞こえるということで、七曲塚と呼ばれたそうです。そこで、機織の音色が聞こえるというところに注目して下さい。ということは、生浜は機織の文化が古代から根付いていたのではないかと、まず思われます。なんとそこから出土した埋蔵物は、そっくり現在千葉市埋蔵文化センターに保管されています。驚く様な物が色々出土しています。山頂には機織の神様である天日鷲命と言う祖神がありまして、それが今は校庭の隅っこにゴミみたいに残っています。どんなに大事なものが、まったく学校側は認識していません。天日鷲命を祀っている所は、ここと登戸です。登戸と言うと皆さんは、戸渡り神社又は登戸神社を思い浮かべますが、ここは元はお

寺です。明治の初めの廃仏棄釈令で神社になったところですよ。実際の神様は天日鷲命です、だから登戸も生浜と一緒に文化圏で繋がっていたのです。登戸ですと信仰していたのは誰かという、それは遊郭の女性だったのです。男性はお参りしなかったので鷲宮とも言いました。鷲宮と言いますと、皆さんは浅草の大鳥神社を思い出されますが、あの吉原の前の大鳥神社も鷲神社と言います。登戸と同じく遊郭があって鷲神社があります。遊郭があったからではなく、元々は布や機織をする人達がお祭りをする所、それが次第に着物を多く持って着飾る遊女のお参りする所になったのではとされています。ここで、村田川を渡ったところに機織の文化の名残として、菅原孝標の娘の書いた「更級日記」に記録が残っています。これは平安末期の事ですので非常に重要な記録です。

昨日、小見川や笹川にやくざの笹川繁造の事を研究に行ったのですが、そこで、色々な人に色々な遺品を見せて貰いながら歩いておりましたら、小見川に出ました。現在小見川は（小さく見る川）と書きますが、昔は麻を紡ぐと書いて（おみ）と言っていました。麻を“お”紡ぐを“み”、と言っていました。麻を紡ぐ川、これが現在の小見川となったのです。千葉の生実野も昔は麻を紡ぐと書いていました。それがどうして生実野になったかと言うと、戦国時代に北条氏がやって来た時、戦に関係する弓の字を当てて、小さい弓、小弓となっていました。その後、農耕文化になると今度は生まれる実と生産して実と言う漢字の当て字を書くように変わってきました。小見川も私の行った所は、たまたま、ぬしはた、織物を織る所、織機に小見川はあるのですから機織に関係する文化の地名です。この様に現在の地名の漢字は後々の当て字ですので、土地の文化を推測するあてには余りありません。

又、印旛沼の周辺には羽鳥と言う地名がありまして、服部という地名があります。これは、ハットリ＝（羽根を取る）羽鳥、同じく服部と言う名前も機織に関係する名でこの地方の先祖は多分機織に従事していた人達ではないかと思われています。

本日の我々、千葉南ロータリー最大のテーマでありますこの場所も機織文化に関係があるということです。どういうことかと言いますと、ここからちょっと国道に戻った所の、田吾作煎餅を訪ねてみたいと思えます。田吾作煎餅の隣に神社があります、白幡神社です。元々この辺りの地名の新明町や新宿町はありませんでした。昔この辺りは、向こうさむがわ、と書いて向こう三河と呼んでいました。川を隔てて都川を挟んでこちら側を向こうさんが、向こうさんがは、江戸時代の呼び名で、鎌倉時代には大変素敵な名前の結城と呼んでいました。結城幼稚園と言う幼稚園がつい最近までここに在ったのですが、現在駐車場になっています。勿体無いです。結城と言う建物とか公園とかが残っていないのは残念です。結城ビルというビルが一軒ありましたけど、それ以

外はありません。

しかし、白幡神社の境内に小さな末社の稲荷神社があります。驚くなかれこの名前が結城稲荷です。もしこの小さな祠のお稲荷様が無ければ、この素敵な結城という名前が千葉から消えるところでした。千葉南ロータリーは結城ロータリーと言っても良いぐらいです。結城と言う名前がどうして機織に関係があるかといえば、昔は、結城は木綿と書いて結城と呼んでいました。結ぶという字は糸偏が付いていますので、機織に関係が深く、特に茨城県は結城市が有り結城紬は有名です。しかし我が千葉市も大昔は茨城県に負けないぐらい織物が盛んで、伝説として七曲塚や、更級日記等の中の織物長者の記述に見られる様に微かに伝説の中にその痕跡を留めていますが、この事は我々がもっと胸を張って外に向かって誇るべき文化であります。

私たちが住んでいる房総半島は布そのものであります。上総と下総がありましたが、千葉県は四国から伊部一族が来て麻を栽培するようになり、本来、上総と下総の二国でしたが、それに安房が加わり三国になりました。これら三国の名前は皆（房）に関係する言葉、布に由来する名前です。これより、千葉県全体が織物の文化を持った国であったと先ず認識する必要があります。近くに東北を代表する香取、鹿島という神社が利根川を挟んでありますが、ここにこの神々が来たのは六世紀です。それまでは、ここに住んでいた神々は皆布を織る神々でした。これらの神々は荒々しい戦の神々でしたので、皆これらに追い払われてしまいました。

しかし、茨城県には一宮、二宮がありますが、二宮は布を祀る神社として残っています。それは静神社で、昔は静神社は倭文（しず）と書いていました。又、大和あやとも書いていました。これは静岡県の静とも一緒です。この布に関係する所には、必ず羽衣伝説があります。有名な三保の松原の話です。同じく千葉にも羽衣伝説があります。今でも千葉県庁の脇にその時の天女が羽衣を掛けたと称する松があります。千葉常胤より四代前に千葉常正という領主の時の天女伝説が、時の朝廷の耳に入り、その時まで平姓を名乗っていた常正は、朝廷より千葉姓を賜って、それ以来ずっと千葉姓を名乗るようになり、千葉常胤の時代、鎌倉幕府の成立時の功績により、全国に幕府より領地を貰い、それが現在の千葉県の地名まで繋がって来ています。この様に布にまつわる羽衣伝説は機織文化のある所には必ず伝承があります。ここで、我が千葉南ロータリーでは地元の結城という名前と、又寒河（さんがわ）という地名を残していかなくてはなりません。

寒河の名前については、千葉寺お堂の脇の江戸時代に置かれた手水石に寒河の文字を読み取れます。向う寒河の方が音としては正しいのではないか。また、さむがわで最初作られた、さんが焼きが現在よそで食べられ、あたかもそこが発祥の如く言われていますが、これからはさんが焼きの発祥はここ千葉

南が最初であると皆でPRしようではありませんか。
(文責 鮫島 永一会員)

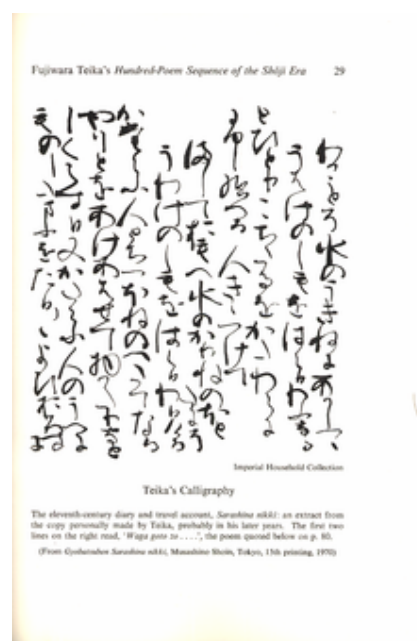
『更級日記』(さらしなにつき / さらしなのにき)は、菅原孝標女が平安時代中ごろに書いた日記。作者 13 歳の寛仁 4 年 (1020 年) から、52 歳頃の康平 2 年 (1059 年) までの約 40 年間の回想録。全 1 巻。

作者は菅原道真の 5 世孫にあたる菅原孝標の次女。母の異母姉は『蜻蛉日記』の作者である藤原道綱母。日記文学に列なるものの、製作形態としてはまとめて書かれたものであろうと言われる。

東国・上総 (現在の千葉県) の国府に任官していた父・菅原孝標の任期が終了したので寛仁 4 年 9 月京の都 (現在の京都市) へ帰国 (上京) するところから起筆し、源氏物語を読みふけり、物語世界への憧憬に過ごした少女時代、度重なる身内の死去によって見た厳しい現実、祐子内親王家への出仕、30 代での橘俊通との結婚と仲俊らの出産、夫の単身赴任そして康平元年秋の夫の病死などを経て、子供たちが巣立った後の孤独の中で次第に深まった仏教への傾斜までが平明な文体で描かれている。

書名の「更級」は、作中の「月も出でで闇にくれたる姨捨になにとて今宵たづね来つらむ」の歌が、『古今和歌集』の一首「わが心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て(雑歌上、よみ人しらず)」を本歌取りしていることに由来すると言われている(作中に更級の文言は無い)。また『更級日記』に因んだものとして千葉県市原市に「更級通り」がある。

(インターネットより)



藤原定家の書写